

鷺敷中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 望ましい人間関係のもと、主体的に学び、考えることを大切に、協働的に学び合いながら、他とかかわる力や表現力などの能力を伸ばしていく指導のあり方を探る。
- 特別支援教育の視点を踏まえ、どの生徒にも楽しくわかる授業を創造する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
植田 輝樹	龍田雅和(校長)、本田卓也(教頭)、岩川卓央(教務主任、研修主任)、松本真治(3年主任)、加賀田葵(2年主任)、松尾美佐(1年主任)

校長

龍田 雅和

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組んだりすることができる。 ●課題の内容が難しかったり、量が多かったりした場合に学習への意欲がそがれてしまうことがある。	①各教科での小テストで合格する。 ②漢検・英検への挑戦をする。 ③反復練習をすることで基礎的な知識・技能が定着している。	①理解できていない単元では繰り返し小テストを行うことで基礎・基本を定着させる。 ②年間に1回は検定を受けさせる。 ③ノートやワーク、小テストを用いて授業の理解度を確認する	・各種プリントを活用して、生徒が理解できている単元、できていない単元見える化を図る。 ・小テストをくり返すことにより、アウトプットをする機会を確保し、定着度を高める。		

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

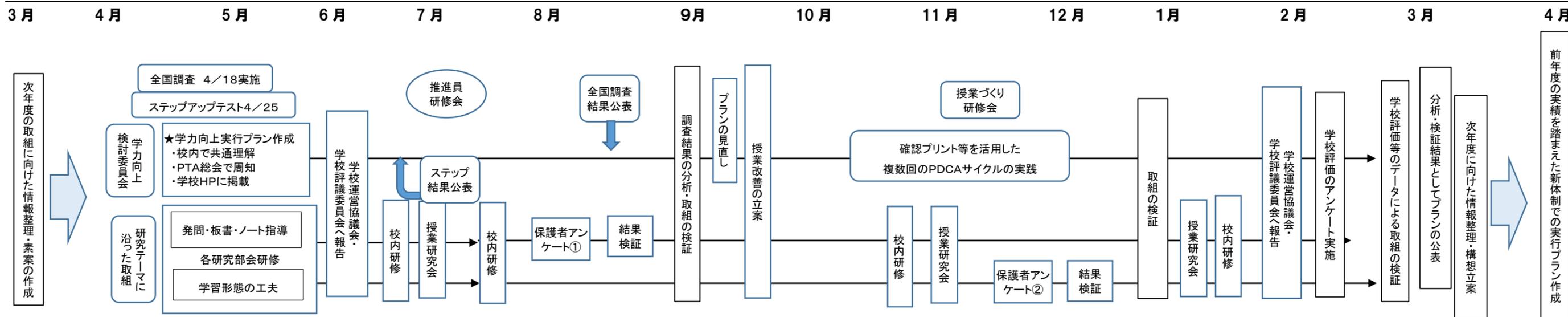
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる。 ●身に付けた知識・技能を、他の学習や生活の場面に関連付けたり活用したりすることに課題がある。	①根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えや意見を的確にまとめ、わかりやすく適切に表現し、相手に伝えることができる。 ②課題に対して最後まで粘り強く取り組み、解決することができる。	①班活動などを取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実現できるような授業を展開する。 ②ICTを活用し、TTによる学習支援や個別指導を行う。	・課題に粘り強く取り組むための時間や機会を確保する。 ・ICTを活用して、個別最適な学びをサポートし、教師が生徒の学びの変容を確認しやすくする。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業において、与えられた課題に対して、粘り強く一生懸命取り組むことができる。 ●「難しい」「苦手」と感じたことには興味を失ってしまい、あきらめてしまうことがある。	①共に学び合い、伸びようとする主体的な行動ができる。 ②家庭学習が充実している。	①授業の目当てとまとめを必ず示し、授業中に生徒同士で教えあったり、意欲的な発表をしたりする時間を設ける。 ②家庭学習時間の目安を示したり、毎日自身の家庭学習時間を把握させたりするなどして、家庭学習を定着させる。	・与えられた課題だけではなく、そこから発展した課題を見つけ出せるような発問等を準備し、生徒の主体的な学習態度を養う。 ・家庭学習の時間をグラフに表し、可視化することで、学習に対する意欲を高める。		

令和6年度 学力向上ロードマップ



学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
○認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

〇〇学校
「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組みたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前には個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつづやきを全体で共有し、課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面での言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいかなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できるところはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのかが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまづきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なきもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和6年度 学力向上ロードマップ

